

「気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング」の記録

2025年9月

制作 気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング企画運営チーム

発行 「気候民主主義の日本における可能性と課題に関する研究」プロジェクト

「気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング」の記録
目次

はじめに	3
1 概要	4
2 プログラム	5
3 ミーティングの様子	7
4 ダイアログの記録	10
4.1 ダイアログ①：気候市民会議の体験を話し合う	10
4.2 ダイアログ②：どんな工夫があるとよりよい体験になるか？	17
4.3 チェックアウト：今後の気候市民会議にどんなことを期待したいか？	25
5 参加者アンケートの結果	27

はじめに

気候変動に対して私たち一人ひとりが身近な問題として考え、本当に実効性のある対策を作り上げるための実践として、ここ数年、日本各地でも無作為選出型の気候市民会議が行われるようになっていきます。このような市民参加の試みにおいて、対話の場をつくり、参加者の関係づくりと学び合い、そして熟議を丁寧に支えるファシリテーターの存在は欠かせません。

日本においては、気候市民会議そのものがまだ新しい取り組みであり、そのファシリテーションに関する知見の蓄積や人材育成の機会は限られています。気候市民会議におけるファシリテーションには、気候変動とその対策に関する多分野にわたる基礎的な情報への理解や、熟議の場における中立性の保ち方、市民の多様な声を引き出す姿勢など、他の分野とは異なる難しさや工夫が求められます。

こうした課題意識のもと、私たちは、2025年3月に東京で「気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング」を行いました。このミーティングでは、これまで国内で気候市民会議のファシリテーターを務めてこられた方々が集い、各地での多様な経験を共有し、気候市民会議のこれからについて一緒に語り合い、考えました。

当日は、気候市民会議の現状や熟議のファシリテーションに関する話題提供の後、参加者がグループに分かれてダイアログ・セッションを行い、ファシリテーター自身の経験や思いを共有しながら、未来に向けた展望についても対話を深めました。

この報告書では、当日のプログラムの流れに沿って、議論の内容や参加者の声を整理・紹介しています。ご参加いただいた方にとってはふりかえりの手がかりとして、また、今後、気候市民会議に関わる方々にとっては実践のヒントや参考資料として、ご活用いただければ幸いです。

2025年8月

気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング
企画運営チーム一同

1 概要

◆名称：気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング

◆ねらい・目的：

「ファシリテーションの充実やファシリテーター人材の育成が、国内における気候市民会議の主要な課題の一つとなっている」との認識のもと、気候市民会議のファシリテーター経験者が、その知見を持ち寄り、交流する場を設ける。

◆日時：2025年3月22日（土）13:15～16:45

◆会場：明治大学 駿河台キャンパス グローバルフロント2階 中教室4021
（千代田区神田駿河台1-1）

◆参加申込者：44名（うち、気候市民会議のファシリテーター経験者28名）

◆主催：「気候民主主義の日本における可能性と課題に関する研究」プロジェクト
（代表：名古屋大学大学院教授・三上直之）
[気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング企画運営チーム]
大江結花、玄道優子、徳田太郎、村上千里、三上直之

◆協力：ユニベルシタスつくば、一般社団法人環境政策対話研究所（IDEP）

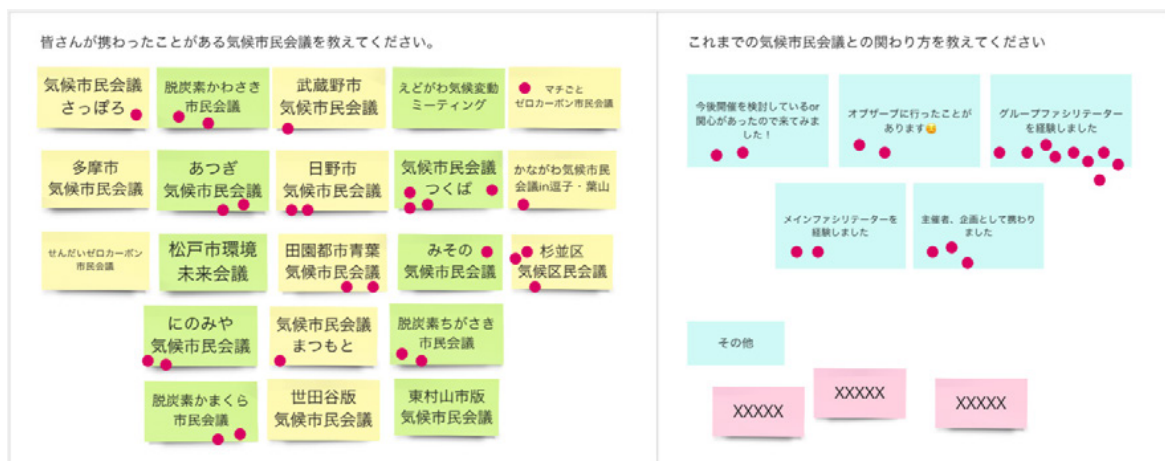
2 プログラム

進行：玄道優子

No	時刻	時間	内容
1	13:00	15	参加者受付 待ち時間にエントリーチェック*アクティビティ *模造紙に質問が記載されており、自分が当てはまるものにシールを貼って回答するもの。6ページ下部参照。
2	13:15	5	開会挨拶： 三上直之 オリエンテーション
3	13:20	20	<u>ウォーミングアップ</u> 旗揚げアンケート（複数の質問に対して、色付きのカードで回答） <u>チェックイン</u> 「今日の参加理由、期待」について、各自紙に書き出しグループで共有を行い、模造紙に集約し会場に掲示
4	13:40	10	<u>話題提供①気候市民会議</u> ： 三上直之 ・どこで、どのように開かれて、どのように活かされているのか ・市民会議をつくるために、どのような人が、どのように関わるとよいのか
5	13:50	10	質疑応答
6	14:00	10	<u>話題提供②ファシリテーション</u> ： 徳田太郎 ・グループの進行において何を大切にすればよいのか（包摂性・多元性） ・企画・設計・運営の観点からファシリテーターを広義に捉える
7	14:10	10	質疑応答
8	14:20	10	休憩
9	14:30	40	<u>ダイアログ①多様な経験をわちあう</u> 下記の問いについて、各自で考える（思い出す）時間をとった後、グループで共有 ・どこで、どのようなファシリテーションを経験しましたか？ ・よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった体験は？ ・驚いた、難しかった、大変だった体験は？
10	15:10	15	<u>シェアリング①</u> 各グループのダイアログ①の模造紙を、参加者が自由に閲覧
11	15:25	10	休憩

12	15:35	40	<u>ダイアログ②未来を考える</u> 下記の問いについて、グループで意見交換 ・もう一度ファシリテーションを体験するとしたら、どんな工夫があると（会議にとって、市民にとって、ファシリテーターにとって）よりよい体験になるのでしょうか？
13	16:15	15	<u>シェアリング②</u> 各グループで話し合った内容のポイントを会場全体で共有
14	16:30	10	チェックアウト 「今後の気候市民会議にどんなことを期待したいですか？（それぞれの目線から考えたとき、気候市民会議はどのようなものであるとよいのでしょうか？）について、各自紙に書き出しグループで共有を行い、模造紙に集約し会場に掲示
15	16:40	5	クロージング・閉会挨拶： 村上千里

＊参加者受付時の「エントリーチェック」のアクティビティは、模造紙上にシールを貼って回答する形で行いました。下記の図はイメージで、投票項目や回答数は実際のものとは異なります。



3 ミーティングの様子

1) 開会挨拶、オリエンテーション

玄道さんの進行と三上さんの挨拶で和やかにスタート。
「こんなにたくさんの方に参加いただいて嬉しいです」



2) ウォーミングアップ

旗揚げアンケートの質問は「気候市民会議で私はファシリテーターをした。YESの人は黄色、NOの人は青」など。全体で参加者の状況を共有したあとは、グループで「今日参加した理由・期待」について共有し、書いたメモをボードに貼り出しました。



3) 話題提供①気候市民会議&質疑応答

4) 話題提供②ファシリテーション&質疑応答

三上さん、徳田さんからの話題提供。それぞれショートプレゼン+質疑応答を行いました。



5) ダイアログ①多様な経験を分かち合う & シェアリング

「どこで、どのようなファシリテーションを経験しましたか?」「よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった体験は?」「驚いた、難しかった、大変だった体験は?」という問いについて、各自の経験・体験を付箋に書き出し、模造紙に貼りながらグループで共有しました。その後、各グループを回遊するかたちで全体での共有を行いました。



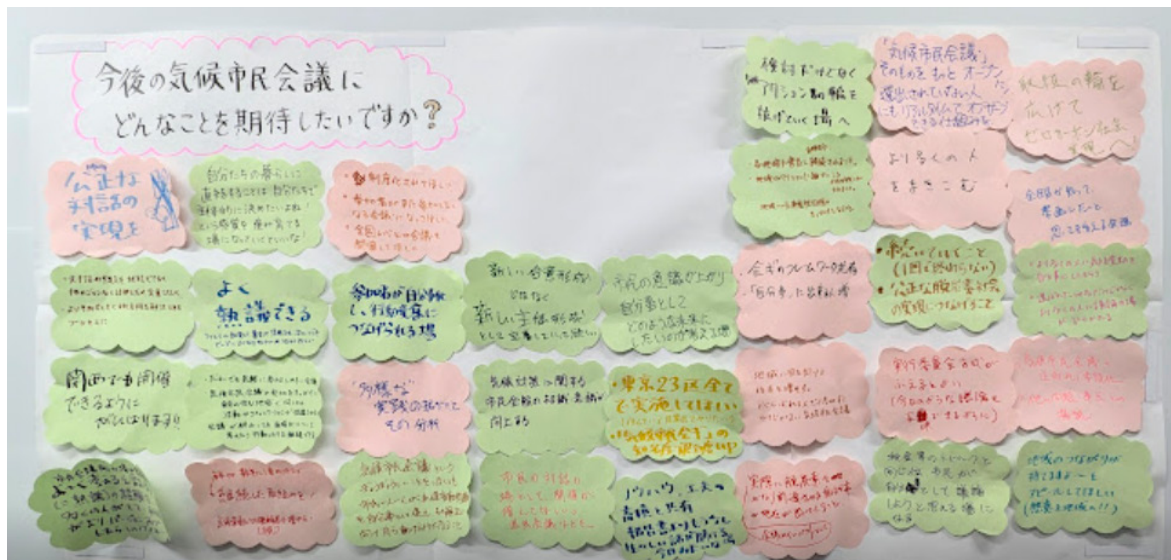
6) ダイアログ②未来を考える & シェアリング

「もう一度ファシリテーションを体験するとしたら、どんな工夫があると（会議にとって、市民にとって、ファシリテーターにとって）よりよい体験になるのでしょうか？」という問いについてグループで話し合い、最後に、全グループが発表しました。



7) チェックアウト 8) クロージング

チェックアウトの問いは、「今後の気候市民会議にどんなことを期待したいですか?」。一人ずつ紙に書き出し、グループで共有しました。会場全体が朗らかな空気に包まれる中、村上さんからの閉会の挨拶でお開きとなりました。

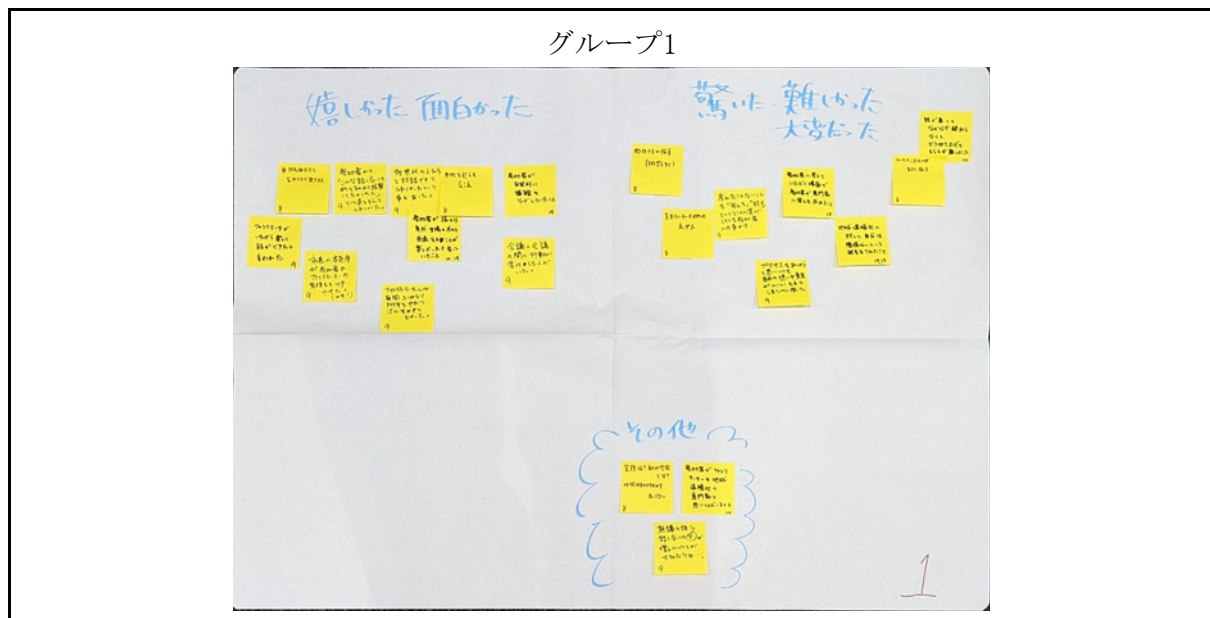


4 ダイアログの記録

テーブルに分かれて行ったダイアログでは、それぞれ次のような意見が出ました。[]内は企画運営チームが本記録の作成にあたって補いました。

4.1 ダイアログ①：気候市民会議の体験を話し合う

気候市民会議での経験、特にファシリテーションに関する経験について、「よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった体験」と、「驚いた、難しかった、大変だった体験」について、グループに分かれて話し合いました。



よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった

- ・ 「世代や立場を超えた対話・交流ができて嬉しい」と参加者から言われた
- ・ 参加者が自発的に議論をリードしていた
- ・ 「ファシリテーターがいたから楽しく話げた」と参加者から言われた
- ・ 市長の本気度が参加者やファシリテーターの気持ちを高めたかもしれない
- ・ 会議開催期間中に参加者の行動変容が見られた
- ・ ファシリテーターチームが毎回振り返りを実施し、次回に活かしてよかった

驚いた、難しかった、大変だった

- ・ 関係性の構築（班替えなど）
- ・ 難しいテーマの広げ方
- ・ 考えたことがないことを「考える」「話す」ことに苦心している参加者への声かけ
- ・ 参加者に考えてほしい場面で、参加者が専門家に答えを求める
- ・ 「自分は地球温暖化に関係ない」と言われた
- ・ 参加者の話が長くなる・偏る
- ・ [ファシリテーターとして] プロセスを扱おうと思いつつも、自分の想いや意見が漏れてしまう

その他

- ・ 地域の取り組みを知らない
- ・ ファシリテーターも地球温暖化の専門家だと、参加者が思い込んでいる
- ・ 熟議を扱うファシリテーターが増えていくことが大切

グループ2



よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった

- ・ 各自が会議外の時間で気候変動対策に取り組み、感想を共有するワークが、参加意識を高めていた
- ・ 「話をすることが面白い」と感じた参加者がたくさんいた
- ・ 参加者同士の仲が深まり、場が和やかになっていった／一緒に市民活動をする事例があった
- ・ グループファシリテーター同士の仲が深まった
- ・ 参加者の途中辞退が少なかった
- ・ ホームグループがあった
- ・ 情報提供を一緒に聞いていたので、情報のアップデートにもなった
- ・ 興味関心が全くなかった方々が、「知ることができて・話せてよかった」と言っていた
- ・ 気候変動対策を考えているうちに、まちおこしにもつながるアイデアを参加者が出してくれた
- ・ 議論が盛り上がった
- ・ 沈黙の時間がないくらい参加者が熱心だった

驚いた、難しかった、大変だった

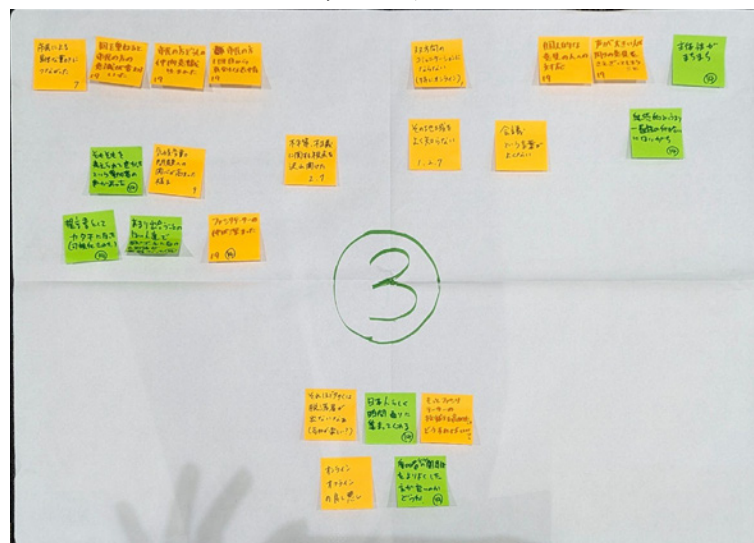
- ・ 気候変動自体に懐疑的な質問が出た
- ・ 年齢が高い方にはインプットが多すぎて理解が追いつかず、発言を諦めてしまうケースがあった
- ・ 海外の方への対応
- ・ [参加者自身に] 書いてもらうことに難しさがある
- ・ 特定の人同士が感情的にぶつかることがあった
- ・ 時間が足りず、議論が深まらない

- ・ コミュニケーションに難しさを抱えている参加者がいて、うまくフォローできたか反省
- ・ 午前午後通しで実施の日は弁当を用意する
- ・ コンビニ弁当・ペットボトルは恥ずかしいかもしれない〔参加者に提供すること、and/or主催・運営が使用することについてと思われる〕
- ・ 話す時間が長い人と短い人が出てしまう
- ・ 話を聞きながら要点を付箋にまとめること
- ・ 参加者から提言の使い道について質問があった際に、主催者から「まだ決まっていない」との回答があった
- ・ 会議終了後、参加者にどのような行動変容があったかの追跡

その他

- ・ 書記がまとめていた
- ・ 鎌倉では熱心な参加者が多かったが、他の開催地ではどうだったのか
- ・ 参加者以外にどう届け、意識変容につなげられるかについて、広報やデザインにできること

グループ3



よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった

- ・ 市民による具体的な動きにつながった
- ・ 回を重ねるごとに市民の意識が変わっていった
- ・ 市民同士の仲間意識が生まれた
- ・ 市民が初回から真剣な表情
- ・ 「そもそもを考えられてよかった」という参加者からの声
- ・ 気候変動問題への関心が高まった様子
- ・ 不平等・不正義に関する視点をたくさん聞いた
- ・ 提言書としてかたちになった（可視化された）
- ・ あまり出会うことのない人たちとの、同じゴールに向けた対話が新鮮だった
- ・ ファシリテーターの仲が深まった

驚いた、難しかった、大変だった

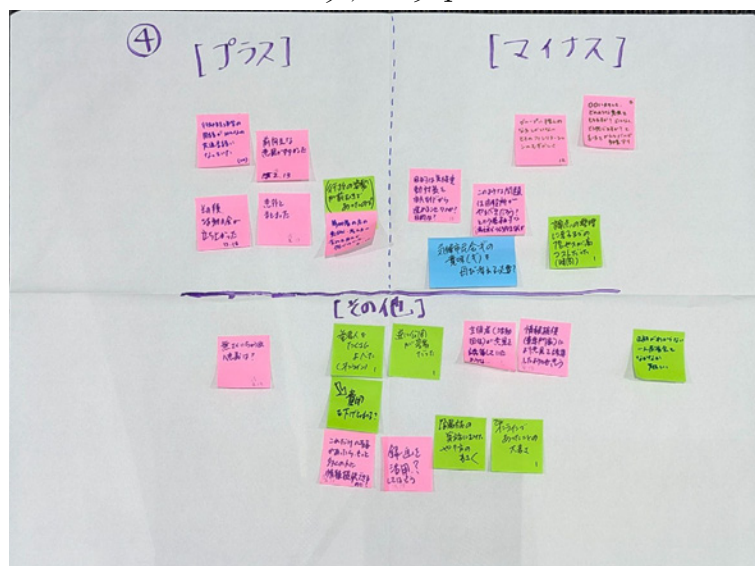
- ・ 双方向のコミュニケーションにならない（特にオンライン）
- ・ 個人的な意見の人への対応

- ・ 声の大きい人が周りの意見を遮ってしまう
- ・ 主体性がまちまち
- ・ その地域をよく知らない
- ・ 会議という言葉がよくない
- ・ 継続的というより一過性の付き合いになりがち

その他

- ・ それほど多くは脱落者が出ない（参加が楽しい？）
- ・ 日本人らしく時間通りに集まってくれる
- ・ もっとファシリテーターの技術を高めたい、どうすればよい？
- ・ オンライン・オフラインの良し悪し
- ・ 参加者同士の関係性をよりよくした方がよいのかどうか

グループ4



よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった

- ・ 行動経済学の用語がみんなの共通言語になっていた
- ・ 前向きな意見が多かった
- ・ その後、活動の会が立ち上がった
- ・ 意外とまとまった
- ・ （行政の姿勢が前向きだったので）参加者の意識・考え方の変化を感じられた

驚いた、難しかった、大変だった

- ・ グループに控えめな方しかいない時のファシリテーションの難しさ
- ・ 「〇〇に対して、どのような意見をお持ちですか？」ではなく「どう感じますか？」と言いかけ「問いかけ」を変えるだけで効果あり
- ・ 目的は？気候変動対策を市民サイドから進めることなのか？
- ・ 「このような問題は市役所がやるべきだろう」という基本的な考え方で後ろ向きな人がいた
- ・ 気候市民会議の意味・意義を再び考える必要「がある」？
- ・ 論点の整理に至るまでのプロセスが高コストだった（時間「がかかった」）

その他

- ・ 無作為抽出「の」意義は？

- ・ オンラインに関して
 - － 参考人をたくさん呼べた
 - － 費用を下げられる？
 - － 逆に公開が容易だった
- ・ これだけの予算があったら、もっと多くの人に情報提供できるのに
- ・ 録画を活用してはどうか
- ・ 主催者（活動団体）が意見を誘導していたような
- ・ 情報提供（専門家）により意見を誘導されたように思う
- ・ 簡易版の実施に向けたやり方の模索
- ・ オンラインの大変さ
- ・ 正解がわからない、一人反省会もなかなか難しい

グループ5



よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった

- ・ 参加者の自発的な行動につながった
 - － 知ること、関心や課題感を抱いてもらえることを見れた・実感できた
 - － 同じ地域にいても接点のない多様・多世代の人々の関わりが生まれた
 - － 参加者が提案の実現のために協力したいと思ってくれた
 - － 参加者からLINEグループが生まれて活動している
 - － 脱炭素行動を実践した参加者の存在
- ・ 実施中
 - － 休憩中のストレッチにみんなこころよく参加してくれた
 - － 事業者の視点を入れて議論できた
 - － 市長提案〔市民提案？〕というわかりやすいアウトプット
- ・ ファシリテーターとして専念できた・ノウハウを共有できた
 - － 運営の分担がはっきりしていて、ファシリテーターに専念できた
 - － 年齢や経験値の違いはありながらも、発言量には偏りのない議論ができた
 - － 毎回の振り返りで他のファシリテーターのやり方を聞いたのがスキルアップになった

驚いた、難しかった、大変だった

- ・ 若い人が多すぎる場合の議論のバランス、みんな気を使いすぎる
- ・ 意見提案の取りまとめ

- 変化の理論・フレームワークの活用、網羅性・有効性の担保
- 意見の集約、整理する際の粒度、抽象度の階層の選択
- 区民の意見をフィルターなく反映すること
- ・ 思想や知識の偏りへの対応
 - 思想が強すぎたり話の長い人がいる場合のファシリテーション
 - グループファシリテーターの個性の強さに苦勞した（ファシリテーション力）
 - グループファシリテーターの知識量に圧倒された（まけた）
- ・ 議論が身近なことになりすぎる
 - 身近でインパクトの小さいアクションの話が多くなりがち
 - 直前の情報提供に議論が引っ張られる
- ・ 実施後の進め方・アクション・枠組み
 - 主催（共催）の期待と参加者の現状とのギャップ
 - 市民同士でつながるしかけ、一人でアクションするのは大変
 - 同じグループで複数回にわたる議論だったが、最後までよそよそしさが残っていた
 - 会議後のアクション・議論の継続方法・スキーム
 - 提案の実現に向けた、行政・市民・企業による推進体制

その他

- ・ オンラインではない市民会議のファシリテーションもしてみたい

グループ6



よかった、うれしかった、おもしろかった、発見があった

- ・ 初回と最終回で、明らかに市民の意識が変化
- ・ 自分の生活・仕事へのアイデアになる
- ・ 自分の生活に根ざした案が出てきた
- ・ テーブルにはグループ感が生まれた
- ・ 学生さんたちの参加（Y-CAM）
- ・ 参加者がちゃんと考えや意見を話していた
- ・ まつもとは、ゴミの分別に誇りを持っていると感じた
- ・ 元々住んでいる方と移住者の視点の違い
- ・ 新たな動きが起き始めた

- ・ 地域特性を知ることができた
- ・ ファシリテーターがいらないくらい話が進んだ
- ・ つながりができた

驚いた、難しかった、大変だった

- ・ 土地勘がなくて共感しづらい
- ・ グループの人数が少ないと、グループワークに差が出る
- ・ グループワークの時間が短いと少し大変、熟議するには時間が足りない
- ・ グチ大会になりそうだったので、自分事化して考えるのが難しかった
- ・ 若いファシリテーターに対して高圧的な態度をとる参加者がいた
- ・ 声の大きな人の偏りを修正することが難しい
- ・ グループで、意見の強い方に発言の時間を多く取られてしまった
- ・ 気候変動ワードへの、参加者の違和感（「脱炭素型」「適応」など）
- ・ 活動を続けさせることが難しい

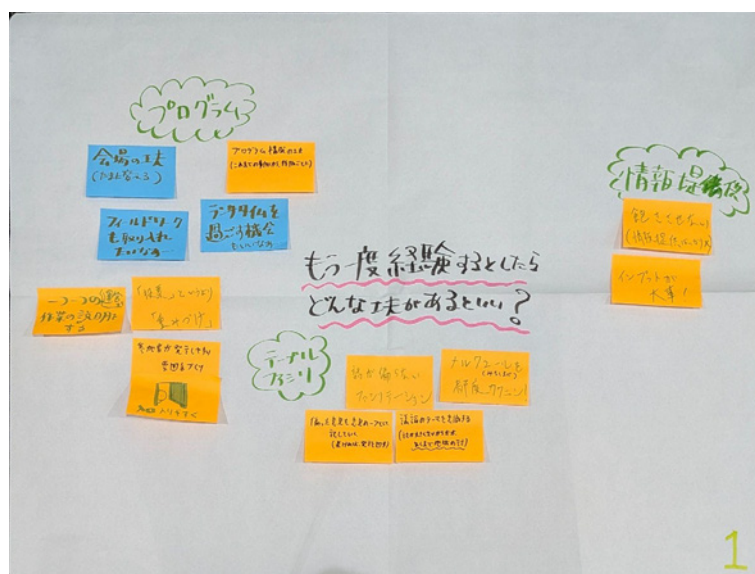
その他

- ・ 予算〔の制約〕もあるが、フィールドワークもあるとよい
- ・ 会議の場に来られない人・生活で精一杯な人に参加してもらう方法（部屋の外のファシリテーション）
- ・ テーマありきになりがちなので偏りがちになる
- ・ 参加者の予習が難しい
- ・ 地域ですでにやっている取り組みの情報提供もほしい

4.2 ダイアログ②：どんな工夫があるとよりよい体験になるか？

「もう一度ファシリテーターを体験するとしたら、どのような工夫があると（会議・市民・ファシリテーターにとって）よりよい体験になるか？」をテーマに、グループに分かれて話し合いました。最後に、ダイアログ②で話し合った内容を、グループごとに全体で発表しました。

グループ1



プログラム

- ・ 会場の工夫（たまに変える）
- ・ プログラム構成の工夫（これまでの事例から、特徴ごとに）
- ・ フィールドワークも取り入れたい
- ・ ランチタイムを過ごす機会
- ・ 運営が一つ一つの作業の説明をする
- ・ 「投票」というより「重みづけ」
- ・ 参加者が発言しやすい雰囲気づくり

テーブルファシリテーター／ファシリテーション

- ・ 話が偏らないファシリテーション
- ・ メルクマール（みちしるべ）を都度確認
- ・ 偏った意見も意見の一つとして記していく（長ければ発言を回す）
- ・ 議論のテーマを意識する（話が大きくなりがちだが、あくまで地域の話）

情報提供

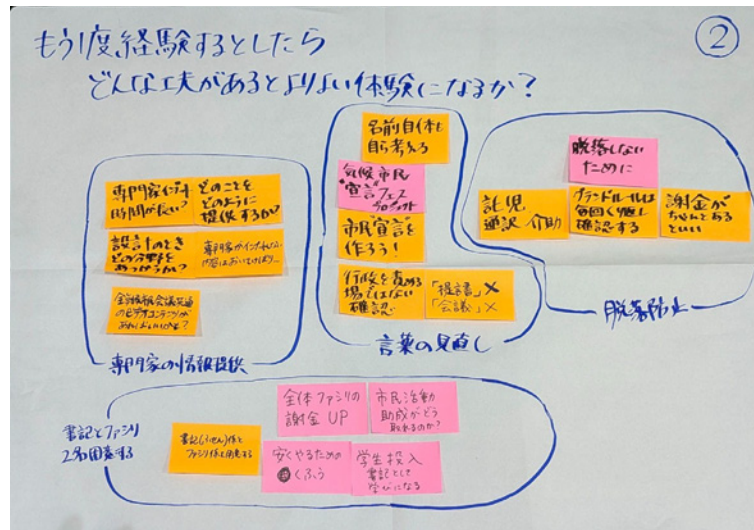
- ・ 飽きさせない（情報提供ばかりは×）
- ・ インプットが大事！

【グループ1 発表】

私たちのグループでは、テーブルファシリテーションや情報提供に関する工夫、プログラムに関するなどが話題に上りました。特に意見が多かったのは、プログラムに関することです。その理由としては、気候市民会議を企画する側にいらっしゃった行政の方がお二人、グループに参加していたことがあると思います。

会議に参加する市民の方々は日々、生活に忙しく、各回の会議が終わって次の回に参加するまでの間に、会議の目的なども頭から抜けてしまいがちです。そこで、毎回毎回、会議の冒頭で、「皆さんには、この場にこういう目的で集まっています」とリマインドするのが重要だといった意見がありました。

グループ2



専門家の情報提供

- ・ 専門家のインプット時間が長い?
- ・ どのことをどのように提供するか?
- ・ 設計のときどの分野を扱うか?
- ・ 専門家がインプットしない内容は置いてけぼり・・・
- ・ 全気候市民会議共通のビデオコンテンツがあればいいかも?

言葉の見直し

- ・ 名前自体を自ら考える
- ・ 気候市民”宣言”フェスプロジェクト
- ・ 市民”宣言”を作ろう!
- ・ 行政を責める場ではない[ことを]確認
- ・ 「提言書」×、「会議」×

脱落防止

- ・ 託児、通訳、介助
- ・ グラドルールは毎回繰り返し確認する
- ・ 謝金がちゃんとあるといい

書記とファシリテーター2名用意

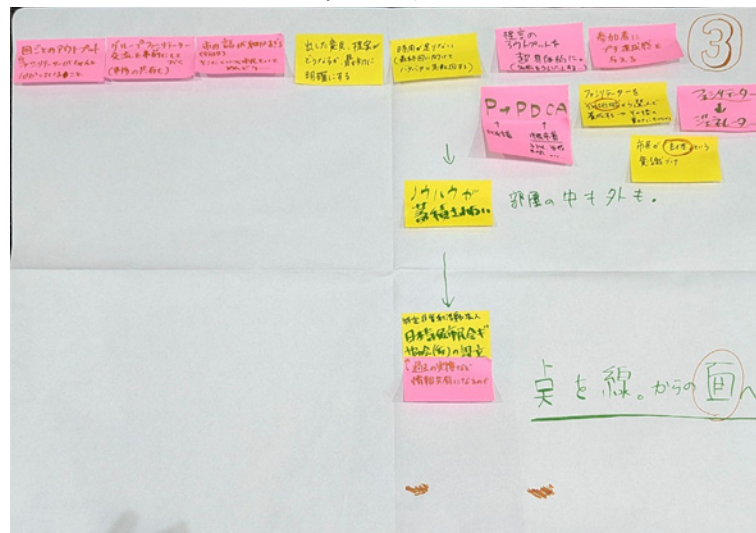
- ・ 書記(ふせん)係とファシリテーター係を用意する
- ・ 全体ファシリテーターの謝金UP
- ・ 市民活動助成がどう取れるのか?
- ・ 安くやるための工夫
- ・ 学生投入、書記として学びになる

【グループ2 発表】

グループで話す中で4つのテーマが出てきました。①専門家の情報提供について、②気

候市民会議に関わる言葉そのものの見直しの必要性、③参加者の脱落防止策、そして④グループに書記とファシリテーターの2名を配置すること—の4つです。一番議論が盛り上がったのが、②言葉の見直しでした。気候市民会議の場合、どうしても愚痴大会になりがちだという意見が出ていたグループがあったと思いますが、そういう場にすべきではないという発言が、まず最初にありました。そのようになってしまう原因を考えると、そもそも「提言書」という言葉自体が、行政に訴えかける、行政に何かを働きかけるという意味になってしまっているのではないか、「提言」ではなくて「市民の宣言書を提出する」という言い方に変えたらどうだろうか、といった意見が出されました。そもそも「気候市民会議」という名前が嫌だという意見が出ていたグループもあったと思います。「会議」ではなく、「気候市民宣言プロジェクト」とか「宣言フェス」とか、会議という名前自体を変えてもいいのではないか、というお話が一番盛り上がりました。

グループ3



- ・ 回ごとのアウトプット、グループファシリテーターがちゃんと分かっていること
- ・ グループファシリテーター交流を事前にしておく（事後の共有も）
- ・ 市（行政）の話が細かすぎる、そこに食いつく市民もいて面倒・・・
- ・ 出した体験・提案がどうなるか、最初に明確にする
- ・ 時間が足りない（最終回に向けてバタバタと急展開する）
- ・ 提言のアウトプットを超具体的に（名前をクレジットする・・・）
- ・ 参加者にプチ達成感を与える

部屋の中も外も

- ・ P：行政主導→PDCA：市民主導（子ども、学校、民間・・・）
- ・ ファシリテーターをその地域から選んで養成する→その後の動きにもつながる
- ・ ファシリテーター→ジェネレーター
- ・ 市民が「主体」という意識づけ

点を線、からの面へ

- ・ ノウハウが蓄積されない
↓
- ・ 特定非営利活動法人日本気候市民会議協会（仮）の設立（過去の実績など情報共有になるので）

【グループ3 発表】

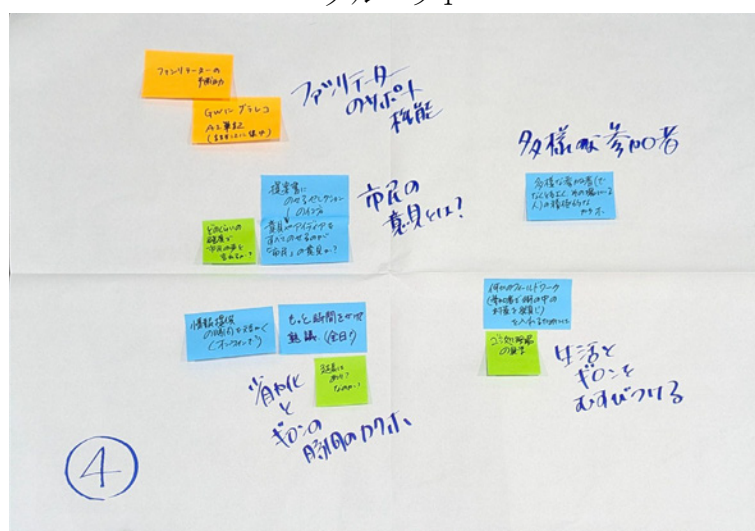
色々な意見が出ましたが、結論から先に言いますと、「特定非営利活動法人日本気候市民会議協会」を設立しましょう、という話になりました。目的は、今日まさに出たような、色々なノウハウを蓄積していくことです。

そこに至った過程として、会議の時間が足りないとか、提言のアウトプットをする際、冊子に参加者の名前をクレジットするなど、色々なプチ・モチベーションを設計してあげる必要があるとか、部屋の中でも外でも色々なファシリテーションが必要、といった話がありました。どこかの地域では、会議の後、今も主体的にアクションにつなげている、主体的なチームや場があると聞きましたが、行政主導だと、PDCAで言うと、Planのところまで終わってしまい、どうしてもDoとか、Actionにまでいかない。市民主導だと、そこに色々介入していけるのではないかと、という意見も出ました。

ファシリテーターをその地域で選ぶことがものすごく大事で、公募して選びつつ育成して、持続的に参加したくなるような良いサイクルを作ることが必要だという話もありました。最近、「ジェネレーター」という言い方もされますが、ファシリテーターとして参加した後、もっと介入してDoしていく、生成するという意味でのジェネレーションの役割を果たしていくことができれば、地域で良い循環が生まれるのではないかと思います。

ノウハウを蓄積することがどうしても必要だということで、点から線へ、線から面へとつながられる境界的な組織体が必要だということで、「特定非営利活動法人日本気候市民会議協会」を設立しよう、という結論になりました。

グループ4



ファシリテーターのサポート機能

- ・ ファシリテーターの補助
- ・ グループワークにグラフィックレコーディング、AI筆記（話すことに集中）

市民の意見とは？

- ・ どのくらいの強度で市民の声と言えるか？
- ・ 意見やアイデアをすべて載せるのが「市民」の意見か？（提案書に載せるセクションの仕方）

多様な参加者

- ・ 多様な参加者（でなくともよく、その場にいる人）の積極的な確保

省力化と議論の時間の確保

- ・ 情報提供の時間を短く（オンラインで？）

- ・ もっと時間をかけて熟議（全日？）
- ・ 延長はありなのか？

生活と議論を結びつける

- ・ 何かのフィールドワーク（参加者で、街の中の対策を発見！）を入れるためには
- ・ ゴミ処理場の見学

【グループ4 発表】

グループ4からは割と独立した論点を5つ紹介します。1つ目は、参加者について無作為抽出が大事であるにしても、例えば車椅子ユーザーや赤ちゃん連れの人のように、会議に来にくい人たちの意見をどのように取り入れていくのが大事なポイントなのではないかということ。2つ目は「生活と議論を結びつける」と書かれているように、例えばみんなで街中に出て太陽光パネル探してみるとか、ごみ処理場を見に行くような感じで、会議室の議論だけでなく、生活の実感との往復のようなものが設計できないかということ。3つ目に、やはりファシリテーターが大変すぎるから、どのようにサポートするかということ。少なくともファシリテータープラス1人、付箋を書いてくれる人とか、グラレコをしてくれる人が必要だとか、その話とセットで、話を録音して生成AIが要約してくれるような道具を使えるのかどうか、といったことも少し議論しました。4つ目は、市民の意見とは何かという議論です。会議で出た意見を提言書に全部載せて良いのか、もう少しセクションをかけるのか。最終的に「これは市民の意見なんだ」と、強度をもって提案するためには、もう少しセクションのあり方を考えると良いのではないかという論点です。最後に5つ目として、「議論の時間が足りなかった」という意見がアンケートでよく出ますが、議論の時間を十分確保して拡充することとセットで、情報提供の方はオンライン化することも含めて省力化することを、この先、考えた方がいいのではないかという話がありました。

グループ5



実施後も継続できるしくみ

- ・ 体制：プラットフォーム（継続支援）
- ・ 参加者同士のつながり：コミュニティ構成、心理的安全性、継続する関係にする支援
- ・ 実現したい度合いはかる：「どれくらい実現したいか」をはかっておけばよかった（思いを確認）

- ・ スキル持ちよる：市民がスキルを持ちよる／共有する（いろんなプロがいるはず）→実行に活かす

目的別に運営・プログラムのフレームワークをつくる

- ・ これまでの市民会議の、「目的（ゴール）施策？市民活動？」「運営体制（誰が主催？市長の協力）」「成果物」を整理して、ある程度枠組み化する
- ・ 目的別の理想の運勢体制
- ・ 会議後のゴールを事前に示す、何のために実施する？を明確にする

気候会議に特化したファシリテーター育成プログラム

- ・ 気候会議に特化したファシリテーター育成プログラム

プログラム進め方の運営側のTips共有したい

- ・ 議論の進め方のデザインやTipsの共有

↑↓

議論の意見主役のフレームワーク

- ・ 思考・検討をサポートする、フレームワークの活用・提示（偏り防止）

↑↓ 観点・視点

各ステークホルダーができること・役割を事前に共有する（そうでないと公共任せになってしまう）

- ・ 行政・市民・企業他のすみ分けの整理（押しつけ防止、自分事化）思考・検討をサポートする、フレームワークの活用・提示（偏り防止）
- ・ 市民意識、マインドセット、シチズンシップ

自分にとって意味を考える、インプット→熟議の間の工夫をする

- ・ 内省プロセスの取り込み、情報ではなく意味として伝える
- ・ 情報提供→熟議の期間をもう少し短く（忘れてしまう）orアクションを促す

インプットをもっと面白く！

- ・ インプット内容をもっと面白く！ちょっと硬い、難しい
- ・ より身近に感じてもらうために
- ・ 脱落してしまう人も

↑↓

情報提供だけではない学び、概念的なトピックなのでフィールドワークをしたい！何のために？を理解する

- ・ フィールドワーク、施設見学などを盛り込む
- ・ 会議室を出て、地域フィールドワークや屋外会議があってもよい（地域愛、理解、多面的視点）
- ・ ファシリテーションとして地域の特性を知りたい
- ・ 地域の特徴を知る機会
- ・ 現場で感じたことを大切に体感する→地域・ローカルとの紐付け

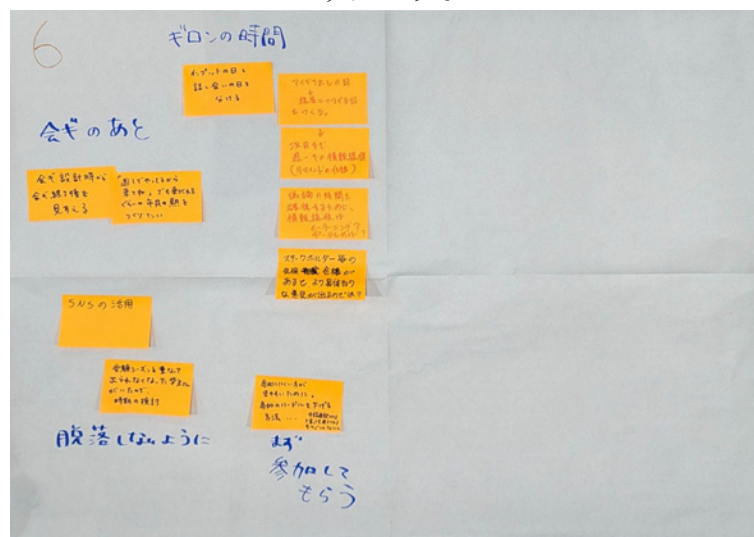
【グループ5 発表】

色々な所で気候区民会議が開催されてきたので、ノウハウをちゃんと整理して今後に生かしていこうという話を中心になりました。目的に応じて色々なプログラムの組み立て方があるので、そういったフレームワークを作ってはどうかということ。会議の目的を事前に確認して、それを発信していくことが大事だということ。ファシリテーターがどのように議論を進めたらいいかというtipsを共有したり、それを、気候市民会議に特化した育成プログラムに生かせないかということ。また、話しているうちに誰かがやってくれるだろうという感じになってしまわないよう、行政、事業者、市民にはそれぞれこういう役割があるというのを、共通の認識を持って議論できたらよいという意見もありました。

インプットは、もっと面白くできるのではないかな。難しくて脱落してしまう人もいた、という話や、インプットと熟議の間の工夫が必要だ、自分ごとに噛み砕くためのアクションをやってみようとか、ライフスタイルブックから1つ選んでやってみようといったことも必要という意見が出ました。学びは会議室の中だけでなく、フィールドワークをすることで学べることも多いので必ず行った方がいい。日本の気候市民会議は自治体レベルで行われているので、地域でフィールドワークをすることで、ローカルに紐付けることができるのではないかなという話もしました。

最後に、実施後に継続していく仕組み、会議をやりっぱなしにするのではなく、その後のアクションにつなげていくような仕組みが必要です。推進体制を組んだり、参加者同士のつながりを育むようなしかけをつくったり、市民の中にも色々なプロがいるので、皆さんがスキルを持ち寄れるようなしかけを会議の中に盛り込んだりといったアイデアが出ました。

グループ6



会議の後

- ・ 会議設計時から会議終了後を見据える
- ・ 「週1でやってるから来てね」でも来てくれるくらいの市民の熱をつくりたい

議論の時間

- ・ インプットの日と話し合いの日を分ける
- ・ アイデア出しの回→提案につなげる回をつくる
- ・ 議論の時間を確保するために、情報提供はeラーニング？ポータルサイト？
- ・ ステークホルダーごとの会議があると、より具体的な意見が出るのでは？

脱落しないように

- ・ SNSの活用
- ・ 受験シーズンと重なって出られなくなった学生さんがいたので、時期の検討

まず参加してもらおう

- ・ 参加しにくい方が来やすいために、参加のハードルを下げる方法・・・手話通訳付けるといっても来てくれるものではないし

【グループ6 発表】

まず、議論の時間をたくさん取りたい、その方法は何かないかという話をしまして、インプットの日と話し合いの日を分けるという案が出ました。インプットの後10分休憩で全

部理解して、その後、話し合うというのはものすごく大変なので、インプットと話し合いの間に時間ができるというのは利点としてあるかもしれません。ただ、多分デメリットも多くあると思います。他には、情報提供をEラーニングにする案も出ました。ただ、それだと参加者の中に、見る人、見ない人、見られない人、色々な方が出てくるので、やはり難しいねという話をしました。

会議の後どのように続けていくか、つなげていくかという話もありました。会議を設計する段階で会議終了後のことも見据えて設計をしていけば、「その後どうするか問題」が何とか解決するのではないかと、という意見が出ました。

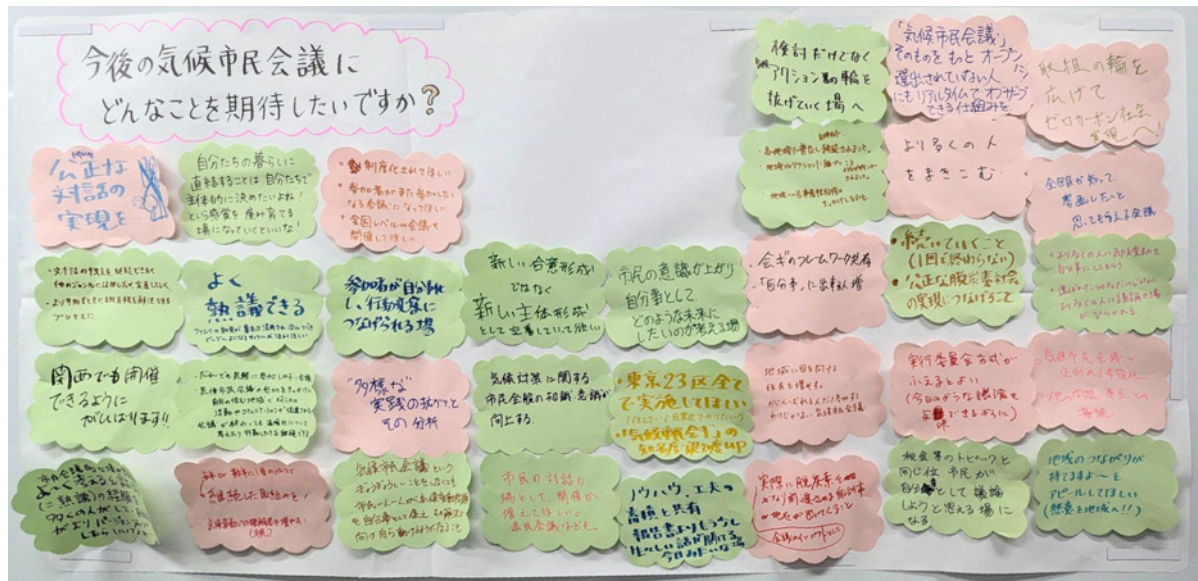
他には、市民会議を1回開催する労力が非常に小さくできて、かつ市民の熱が十分に高い状態になって、「ここに来れば、週1回いつもやっていますから」と呼びかけて、だれでも参加できるような状況と市民の熱の両方が実現できたら理想だ、という話もありました。

会議途中の脱落をどのように防ぐかという話の中で、ある地域では受験シーズンと重なってしまって、途中から学生さんが出られないという実態があったとのことで、時期の検討や、皆さんすでにされているとは思いますが、SNSの活用も改めて有効だという意見も出ました。

最後に、参加のハードルを下げる方法、参加しにくい方にどう参加してもらうか、というのはなかなか難しいところで、何も結論は出てないのですが……例えば、手話通訳が付きますと案内しても、手話が必要な人はなかなか参加されない、ということを私自身、今、別の仕事で実感しています。ではどうしたら良いのかというのが難しいところです。車椅子の方だったり、介護中の方だったりをどう参加してもらうかも工夫していきたい、という話が出ました。

4.3 チェックアウト：今後の気候市民会議にどんなことを期待したいか？

ミーティングの最後に、チェックアウトとして「今後の気候市民会議にどんなことを期待したいですか？」を一人ずつ紙に書いて、グループで共有しました。（本記録の作成にあたり、書き起こしの表記は原文ママとしています）



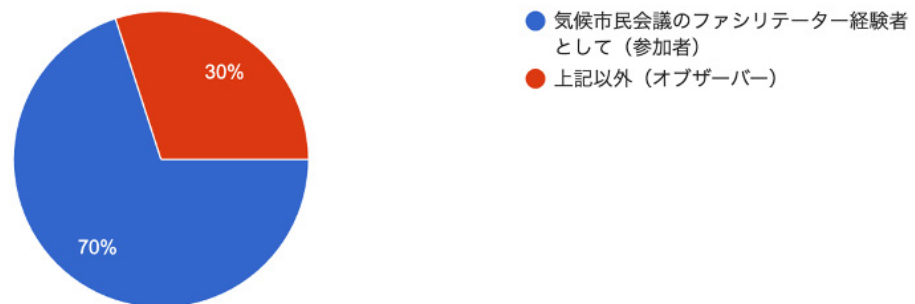
- ・ 公正な対話の実現を
- ・ 対話の機会を継続できたり、他のジャンルに活用したり、発展していく。より参加者と共に気候危機を解決できるプロセスに
- ・ 関西でも開催できるようにがんばります！！
- ・ 市民会議的な場が常設されてよ〜く考える&話しあう（＝熟議）の経験を多くの人がして、民主主義がよりバージョンアップしたらいいなあ
- ・ 自分たちの暮らしに直結することは、自分たちで主体的に決めたいよね！という感覚を産み育てる場になっていくといいな！
- ・ よく熟議できる。ファシリの知見が集まって活用され次につづきどんどんよくなるサイクルがうまれてほしい
- ・ 誰でも気軽に参加しやすい会議。気候市民会議の参加をきっかけに自分の住む地域で何らかの活動やコミュニケーションが促進される。会議が終わっても温暖化について考えたり行動したり継続できる。
- ・ 毎年or数年に一度のペースで継続した取り組みを！気候変動への理解者（市民）を増やす！
- ・ 制度化されてほしい。参加者がまた参加したくなる会議になってほしい。全国レベルの会議も開催してほしい。
- ・ 参加者が自分事化し、行動変容につなげられる場
- ・ “多様な”実践の拡がりとその分析
- ・ 気候市民会議というぎょうぎょうしいことをしなくても市民一人一人が気候変動問題を自分事として捉え、その解決に向け自ら動けるようになること
- ・ 新しい合意形成ではなく新しい主体形成として定着していった欲しい
- ・ 気候対策に関する市民全般の知識・意識が向上する
- ・ 市民の対話の場として、開催が増えて欲しい。県民会議なども。

- ・ 市民の意識が上がり自分事として、どのような未来にしたいのか考える場
- ・ 東京23区全てで実施して欲しい（住んでいる目黒区でやりたい！）。「気候市民会
ぎ」の知名度・認知度UP
- ・ ノウハウ・工夫の蓄積と共有。報告書よりもう少し生々しい話が聞ける今日みたい
な場
- ・ 検討だけでなく気候アクションの輪を拡げていく場へ
- ・ 各地域に普及し自律的に継続されること。地域でのアクションに紐づくようなデザ
インがされること。地域への当事者性回復のきっかけとなること。
- ・ 会議のフレームワーク共有。「自分事」に出来る人増。
- ・ 地域に目を向ける住民を増やす。がんばれる人だけ参加するわけじゃない気候市民
会議。
- ・ 会議のインパクトとして実際に脱炭素をかなり前進させる自治体or地域が出てくる
こと
- ・ 「気候市民会議」そのものをもっとオープンに！選出されていない人にもリアルタ
イムでオブザーブできる仕組みを。
- ・ より多くの人をまきこむ
- ・ 続いていくこと（1回で終わらない）。公正な脱炭素社会の実現につなげること。
- ・ 実行委員会方式が増えるとよい（今日のような議論を反映できるように）
- ・ 税金等のトピックを同じ位、市民が自分事として議論しようと思える場になること
- ・ 取組の輪を広げてゼロカーボン社会実現へ！
- ・ 全区民が知って、参画したいと思ってもらえる会議
- ・ より多くの人に気候変動を自分事にしてもらおう。選ばれた40名だけでなくより多
くの人に議論の場がひらかれる。
- ・ 気候市民会議の定例化／常設化。他の問題・争点との接続
- ・ 地域のつながりが持てますよ～をアピールしてほしい（熱意を地域へ！！）

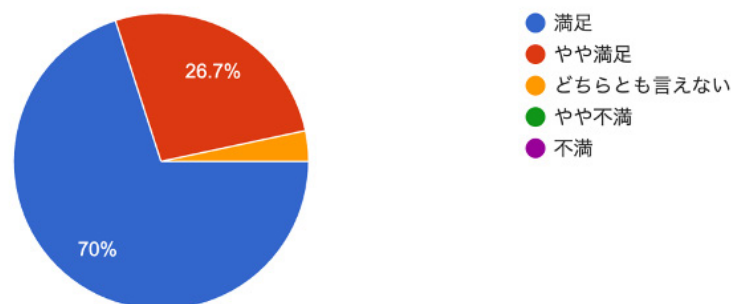
5 参加者アンケートの結果

アンケート回答数：30件（ミーティング終了後にGoogleフォームで回収）

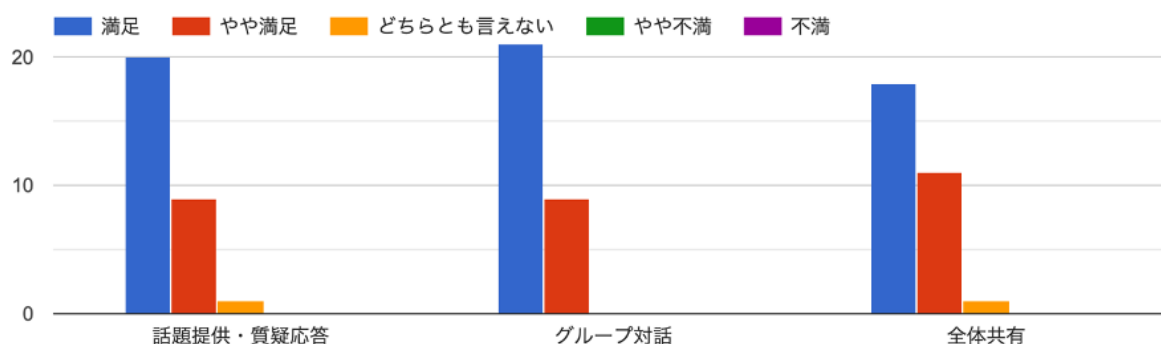
あなたは、今回のファシリテーターズ・ミーティングに、どのような立場でお越しになりましたか？
30件の回答



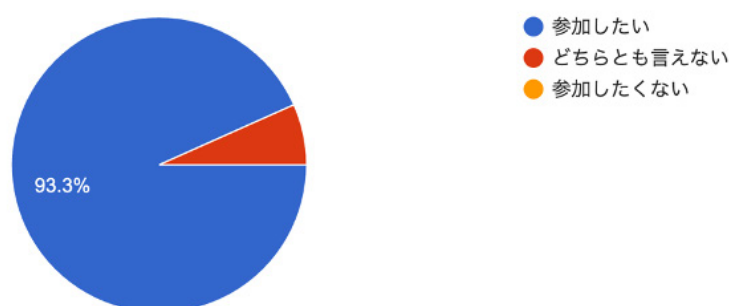
今回のミーティングは、あなたにとって、全体としてどの程度満足できるものでしたか？
30件の回答



ミーティングの主な内容に対する、あなたの評価をお聞かせください。



今後また、気候市民会議の実践をテーマとしたイベントがあったら参加したいと思いますか？
30 件の回答



あなたは、今後の気候市民会議にどんなことを期待したいですか？（ミーティングの最後に全体に投げかけた質問です。その場で紙に書いたのと同じ意見でも結構です。ぜひ改めてお聞かせください）

- 継続させることで、国民ひとりひとりが気候変動問題に対して、自ら動けるようになっていくこと
- 対話の継続と他ジャンルへの広がり、後続の気候市民会議のブラッシュアップ
- 参加者が気候変動や脱炭素を自分事化し、行動変容につながる場になればいいなと思います。
- 公正な脱炭素対策の実行に影響を与える会議となること
- 一度参加した参加者がまた参加したくなるような会議設計がしたいです。
- より多くの人に、気候変動問題を自分事として考えるきっかけとなる会議になること。
この会議をきっかけに、行動変容してもらうこと。会議という枠組みがなくとも、多くの人が日常的に気候変動について話す機会が広がること。

- 気候変動問題が、税金などのトピックと同じくらい自分ごととして捉えられ、当たり前
に議論されるようになることを期待します。 また、市民会議→県民(都民等)会議→国民
会議と更に発展していき、国民的議論になると素晴らしいです。
- 東京23区全てで実施してほしい
- ①各地域への普及と自律②アクションへの紐付けを含めたスキームのリデザイン③脱炭
素に向けた急進的な変化を可能にする、民意・当事者性を醸成する土壌となること。
- 実行委員会を作って設計の各種判断を透明化したものが増えるといいと思っています
(ただ、ハードルが上がるので、簡易な実践事例もそれはそれで増えるといい)
- 1. 市民会議同士での情報共有の仕組み作り
2. 住民≠行政サービスの消費者 という意識改革の場になること
- 決して打ち上げ花火に終わらずに、これまでの各地での実践が蓄積されて関係者に共有
されることで、より効果的な気候変動対策のツールとして活用されることです。
- 会議が、もっと市民権を得られるような広報を期待したい。それを仕掛けるための組織
が必要。
- 気候対策に対する市民全体の知識や意識が向上し、社会の変容につながるものとなって
いること。提言が行政に反映されることも期待したいが、参加市民だけではなく、そこ
から広がって市民全般の関心が高まる姿を期待したい。
- より実効性の高い形で行政やステークホルダー・市民に提言が届くこと。ファシリテー
ターの立場としては、各地のファシリテーターの知見がきちんと集まりきちんと活用さ
れるサイクルができて、年々よりよい形で熟議が進むようになってほしい。
- 会議が終わっても継続して活動したり、コミュニケーションできること
- 多様な実践が行われること。それらが分析、比較されていくこと。
- 抽選制の市民会議と、代表制の議会が共存する民主主義の形が育っていったらいいなと
思います。
- 自分たちの暮らしに直結することは、自分たちで主体的に決めたいよね！という感覚を
生み育てるは場になっていくといいな
- 気候危機に向き合う市民を増やす
- 気候市民会議の認知度を上げたい
- ノウハウの蓄積と共有の場を提供してほしい(オンラインや今日のような会でもどちら
でも) ちょっとした工夫や生の声も聞きたいので、関係者のみのクローズドがいいか
も。
- 気候市民会議がより多くの地域で広がり、FAの知見も蓄積され、ゆくゆく都民会議や県
民会議の規模に繋がっていくこと(より大規模で気候変動を考える場ができること)、
また、市民発のボトムアップ型が増えることを期待しています。
- 市民が自分事と考えるアクションに繋がる意図を持つプログラム。
机上だけでなく体感体験を交える事が意識を変える為に有効かもしれません。

- ①会議の開催前段階での周知徹底 いきなり無作為抽出で参加打診があっても、ピンとこない一般人が大半でしょう。それでは勿体無い。気候市民会議が限定された自治体にとどまらず、少なくとも日本国内であまねく開催されるためには各世代にフィットするアンバサダーを5～10名ぐらい選抜して（世代別・地域別・納税額別・業界別など）キャンペーンを年間通して垂れ流すぐらい必要。
- ②専門知識の習得まで深いレベルまでは要求されなくとも、「切り口」を見出せるぐらいの「基礎理解」の共有は必須。一般のファシリテーション➕アルファの養成機関の構築を！
- ③参加者が自らの意思で「行動」を起こすためには、単なる自己満足ではなく「達成感」を味わせる客観的な指標が有効です。日本人の資格好き、検定好き、クイズ王好きの習性に着目して【気候検定🏆上級🥈中級🥉初級】を新設する。検定料（収益）は、『全日本気候国民会議』の運営費としてプールする。
- ⑤🏆全日本気候エリア会議選手権を開催する。各地区（市・区・民間）で開催された会議の成果をプレゼンする部と、その後、参加者がどのような地域貢献アクションしたかった、を競い合う。気候会議の甲子園大会🏆。エリア内で自己完結させるのではなく、競わせることで地域の垣根を越えたノウハウは人の交流に繋がる。
- 気候市民会議の発言の偏りと意見の偏りについて、ファシリテーターのスタンスについて議論が進んでほしい。

最後に、今回のミーティングや気候市民会議全般に関して、ご意見やご感想がありましたらお聞かせください。

- 各地域の状況を知ることができました。
- 対話について、率直な話が出来て楽しかったです。切り離せないのか企画プログラムの話なども出ましたが、熟議というものの進め方や、参加者を主体的にするためのヒントを得られたと思います。ありがとうございました。
- このような機会を設定していただきありがとうございました。主催者、事務局のみなさまに感謝申し上げます。
直接、市民の対話に触れたグループファシリテーターだからこそ持っている知見は、会議を設計・運営するうえでとても重要なものと思います。ファシリ対象の事後アンケートもあったりしますが、こうして直接知見を持ち寄り議論する場を、今後も希望します！
- 傍聴者として参加しましたが、途中で参加者の方から話を振られたりして、結構話してしまいました。ファシリテーターの方は絶えず変化する現場で臨機応変の対応をアドリブでしないといけないので、その手法論を考えるのは難しく感じました。
- 他の気候市民会議の運営方法や様子などを情報共有することができ、大変勉強になりました。また、他の方が、どのようにファシリテーションしているか知ることができ、今後にいかすことができそうです。

- とても楽しく参加させて頂きました。ここで集まった意見を集約され、より良いノウハウが蓄積され、今後の気候市民会議のファシリテーションの発展に繋がることを期待します。
- 全国の会議に関係された方が一堂に集まる機会はいろいろな話を聞けて面白かったです。ありがとうございました。
- ファシリ経験者の皆さんが、参加者が気候変動を「自分事化」して自ら行動することを望んでいる様子が印象に残りました。それはそれでよいかもしれないのですが、個人的には、各個人の意思による行動を促すよりも（それだと広がりに限界があるので）、仕組みづくりに重きを置いた方がよいと思っています。
- このような場を作っていただいた皆様に感謝です。ありがとうございました。
- 次年度以降の杉並区取組に生かせる非常によい機会をいただきまして、ありがとうございます。気候区民会議の提案に対する対応は、今後が主戦場と考えておりまして、ユースを対象とした取組も予定しております。引き続き、三上様にはご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。
- コミュニティとしてつながれる工夫があってもいいかと思いました。スラックなのか、LINEなのか。よろしくお願いします。
- フランスと違ってそもそも市民の中で意見の対立があるわけではなく、市民の無関心が問題だとすれば、日本で気候市民会議をやる意義は何かを見極めて、形式だけを真似るのではなく、社会を変えるために最も効果的な方法を追求することが大切ではないでしょうか。
- 気候市民会議が関東でかなりの数が開催されていることを知り、千葉県では松戸市しか開催していないことに千葉県民として疑問を持った。開催地ごとの会議の様子の違い（特に厚木、杉並区の行政の姿勢）を目の当たりにして、そうなる理由を見つけて次につながる知見が得られるようであってほしいと感じた。
- とても楽しかったです。
素晴らしい機会をありがとうございました。
またこのような集まりや気候市民会議に参加したいと思います。
- 主催の皆様、準備ありがとうございました。
- ありがとう。お疲れ様
- 広める継続する方法を皆で考えたい。
- 違う地域に参加されたファシリテーターや関係者の方々と意見交換が出来て、地域ごとの違いや共通する意見も共有が出来て、とても興味深い会議でした。参加して良かった、楽しかったです。次回また気候会議がありましたら、参加したいです。
- オブザーバーとしてにとどまらず、ファシリテーションも担当したい。そのために身につけるスキルをどのように身につけて、登録して認定を受ければ良いのか、を知りたいです。
今日、参加された方々限定のコミュニティやグループLINEがあるといいですね。

● 熟議という対話の場の経験者が集うミーティング、圧巻でした！！

参加者の皆さんがどのようにファシリテーターをするきっかけを得たのか、どのように練習したのかなどお一人おひとりのバックグラウンドがとても気になりました。

これからもどうぞよろしくお願いいたします！

「気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング」の記録

2025年9月25日 発行

制作 気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティング企画運営チーム
(大江結花・玄道優子・徳田太郎・村上千里・三上直之)

DTP 大江結花

発行 「気候民主主義の日本における可能性と課題に関する研究」プロジェクト
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻 三上研究室内
E-mail: info[at]citizensassembly.jp ([at] を半角の@に変えてください)

気候市民会議ファシリテーターズ・ミーティングは、科研費基盤研究(A)「気候民主主義の日本における可能性と課題に関する研究」(23H00526)、同基盤研究(B)「『科学・公民』教育としての気候市民会議プログラムの開発」(23K25717)の一環として行いました。本記録の作成にあたっては、2025年度名古屋大学大学院環境学研究科教育研究等推進経費の支援を受けました。